

電極材料の量産装置

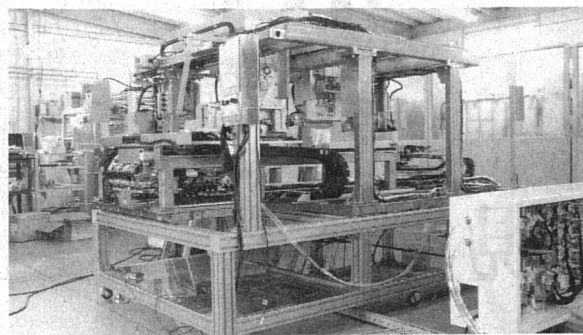
FUK、海外大学に納入

グラフェン

液晶関連装置のFUK(奈良県御所市)は炭素材料「グラフェン」の量産用装置Ⅱ写真Ⅱを開発した。グラフェンは炭素原子が結合したシート状の素材。装置は基板に転写テープを貼り付けた

り、グラフェン層をはがしたりできる。このほどグラフェンの量産化を研究する海外大学への納入が決まった。装置はグラフェンの生産工程で重要な、基板に転写テープを貼り付けて

グラフェン層をはがすなどの工程を1台でできるという。FUKは液晶パネルの製造装置の開発ノウハウを生かし、生産技術を確立した。グラフェンは熱伝導率が高く、柔軟性や伸縮性



にも優れる。次世代の電極材料として注目を集める

ており、有機エレクトロルミネッセンス(EL)の曲面ディスプレイなどの電極に利用できると期待される。本格的に量産している企業はまだなく、韓国のサムスン電子のほか、英ケンブリッジ大学やシンガポール大学などが研究を進めている。FUKの量産用装置の開発で、グラフェンの事業化が加速すると見込まれる。